

歴史探訪 Historia ヒストリア

めでたいもの あつまれ！

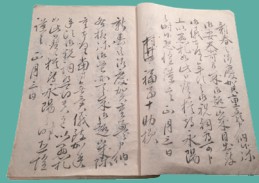


写真 企画展で展示中の明治時代の年賀状

人とつながる
— 年始状から年賀状へ

年の初めのあいさつを文書で伝える習慣は、平安時代にまでさかのぼると言われています。市内で確認できる最古の例は、江戸時代の「年始状」です。

川之江村で船着き場の管理や警備を担っていた「浦手役」の記録である「長野家文書」には、この地域を管轄していた代官などに宛てた年始状の控えが残されています。その文面は格式を重んじつつも、新年を迎えた喜びを伝える内容で、現在の年賀状の原型とされます。



文化4（1807）年の年始状の控え。年始のあいさつと、良好な関係の継続を願う言葉が記されている

明治時代に郵便制度が整うと、この習慣は庶民にも広がり、私たちになじみ深い年賀状の形が定着しました。年始のあいさつを通じて人と人がつながる文化は、今も変わらず受け継がれています。

色鮮やかな版画広告 — 引札

ひきふた

江戸時代後期、版画技術の発展に

伴い、商店は宣伝のために「引札」を配るようになりました。

特に年末年始に配られた「正月用引札」は、福神や縁起の良い動植物が多色刷りで鮮やかに描かれており、現代の「新春初売りチラシ」の源流と言えます。

市内にも正月用引札が残されており、この地域でも新年を彩る風習として親しまれていたことが分かります。



市内の商店が発行した正月用引札。大黒と恵比寿が商売道具らしき物と共に描かれている

神とのつながり
— 三番叟まわし

さんばそう

新年の風習には、神聖な存在と深く結び付いたものがいくつもありま。徳島県発祥の「三番叟まわし」もその一つです。市内では、新宮地域を中心に「正月に三番叟まわしを自宅に迎えていた」という思い出話をよく耳にします。

三番叟まわしでは、神の使いとされる4体の木製人形「木偶」を訪問先で舞わせ、その家に福を呼び込みます。江戸時代に始まったとされ、

長く正月行事として受け継がれてきました。

昭和後期には姿を消しつつありましたが、現在は「阿波木偶箱まわし保存会」によって再び各地の家庭に福を届けています。



今も新宮地域を訪れている三番叟まわし（2024年撮影・新宮町上山）

新しい年の始まりや人生の節目など、さまざまな場面の人々を祝ってきた「めでたい」文化。デジタル化や生活様式の変化により姿を消しつつある風習もありますが、現在開催中の企画展で、今一度地域に残る伝統に目を向けてみませんか。

企画展「めでたいものあつまれ！」

1/31（土）～3/29（日）

¥0
FREE

四国中央市歴史考古博物館
- 高原ミュージアム -

縁起物の絵画や工芸品、習俗など、めでたいモノ、コトにまつわる資料を紹介。

学芸員による展示解説

2/28（土）、3/1（日）

13:30～（30分程度）

問 歴史考古博物館 - 高原ミュージアム -
☎ 28-6260 📍 川之江町 2217-83

